



発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第63回川部会WGを開催しました！

第63回川部会WGは、令和5年度の活動目標・活動計画について話し合いました。また、バスツアー計画、流域連携イベント等について情報共有を行いました。

日時：令和5年8月22日（火）13:30~16:10

会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：15名（内オンライン参加2名） ※事務局を含む



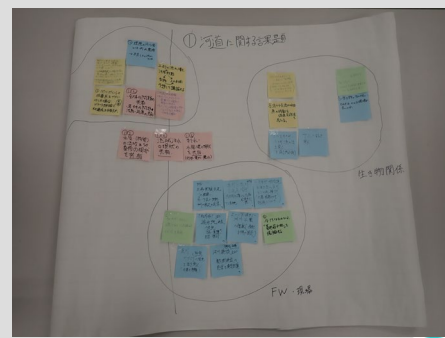
◆主な会議内容

1. 川部会の活動計画について



令和5年度は、①河道に関する課題（本川・支川）・②流域に関する課題・③交流・共有に関する課題の3つのテーマについて、「流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標としました。目標達成に向けた活動計画を策定していくため、3つのテーマに関する課題、アイデア、提案等の意見を付箋紙に記し、出てきた意見について意見交換しながら、意見のカテゴリー分けを行いました。

また、野田賢司氏による活動目標をベースとした提案と意見のカテゴリー分けから、令和5年度の活動計画、今後の活動方針、課題等について話し合いました。



2. 昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介



内田臣一氏の研究室（愛知工業大学土木工学科）の卒業研究から、矢作川の生物に関する研究内容について紹介いただきました。矢作川では、河床の攪乱不足による生物への影響が出てきており、カワヒバリガイや底生動物の生息・生育状況の変化について調査解析結果が報告されました。また、置土実験による造網性トビケラ類の生息状況の変化、川底に潜って生息するコナガカワゲラ属、ヒメドロムシ科の生息状況について報告されました。

3. 設立から13年のふりかえり



川部会の13年間の取り組みについて整理し、そこから見えてきた課題、今後の試みについて整理した資料「川部会13年のふりかえり」について事務局より説明されました。今後は、川部会で協議しながら、15年の節目としての一覧表を整理していく予定です。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●川部会の活動計画について

■付箋紙に記された主な意見

①河道に関する課題

【生き物関係】

- ・河川の生態系ネットワークに着目した講演会。
- ・本流⇄支流⇄水田。魚の移動を促進する方法を考える。
- ・生き物の棲みやすい環境を考える。アユ、シラスウナギ、ウナギ漁の話しを聞く。

【フィールドワーク・現場】

- ・ウォーキング、マラソン、山登りなど川を絡めたイベントを実施。まち（川）を歩き、流域を知る。
- ・土砂実験状況の視察、中・下流の地形・洲の状況見学。
- ・河川、遊水地、河川施設、観測施設等の予定地、現地の見学と検討。
- ・本川と巴川の合流点付近の視察。上～下流までの河川公園の視察。
- ・菱池遊水地の議論。川づくり前後の現地視察と検証・今までの訪問地の再検討（成果・結果・経緯等）

②流域に関する課題

- ・上流の人は下流の人、下流の人は上流の人のことを考える。
- ・全体の問題の共有。各地の問題、活動、施策の共有。
- ・土砂の流れの増大・河床の形態・生物・人の利用 の関係を予想して議論する。
- ・矢作川カーボンニュートラル プロジェクトに関する情報共有・意見交換。
- ・災害の履歴や防災について学び、災害が発生した際の行動を考える機会をつくる。
- ・歴史・文化について。災害伝承地・施設・景観 良いところをピックアップ。
- ・矢作川の歴史を踏まえ、治水・利水・環境のバランスのとれた矢作川のあるべき姿を検討。理想の河川像の整理。
- ・本川：川のストーリーに影響している要因と課題への対応。支川：川の環境を決めているハビタットの抽出と検討。
- ・健全な水・土を創出する森林へのお願い。水を貯め、地下へ浸透させる農地へのお願い。川としての海への責任。
- ・流域治水事業箇所を取り上げ、FW を行い、説明と情報交換を行う。流域治水の現状を共有（行政・電力・環境）。
- ・「流域治水+かわまちづくり」のイベント（公開講座など）を企画する。
- ・乙川での「かわまちづくり」に関する活動について、岡崎市の市民団体の方に話題提供をいただく。
- ・利水・水循環の現状を共有。水質（物質）の流域からの負荷の現状を共有。
- ・水辺の危険と対策+親しみやすい水辺。

③交流・共有に関する課題

- ・川部会企画による山部会・海部会との合同協議。
- ・中部いい川づくりWS（矢作川）に参加し、外部団体との交流・共有を図る。他団体の開催するイベントへの出展、活動紹介などを行う。大学等に流域圏懇談会の活動を紹介するポスターを掲示する。
- ・情報発信は、TV、マスコミをうまく利用する。情報発信してもらえそうな魅力ある川づくり。
- ・どこまでの情報を共有するか。意見交換をどこまで行うか。行政との協働をどう図るか。流域の農業団体への理解・啓発をどのように展開するか。
- ・流域圏懇談会が何をするとところなのかかわかりにくい。
- ・これまでの活動・情報をテーマ別にまとめて共有する。「活動」のアウトプットの交通整理分類。
- ・矢作川のもっている負の部分、改善の必要があるところなどを列挙した表などがあるとよい。

■ディスカッション

- ・河道に関する課題としては、本川・支川を含めて、何が望ましいのかという議論が必要と思う。（内田）
- ・治水・利水・環境のバランスについて。今まで土砂がひとつの鍵になるというのが共通認識であったが、流域治水に合わせて考えていくことになると思う。（内田）
- ・FW を川部会の活動として位置付けるという意向がはっきり出ている。（内田）
- ・生きものの棲みやすい川づくりという当初からの目標は継続していくことでよいと思う。（内田）
- ・矢作川流域圏懇談会で話し合ったことを具体化していく経路を考える必要がある。市町の河川担当に「こういう意見がある」というようなことを伝えていくような方向がほしいと思う。（光岡）
- ・流域圏懇談会で出てきた情報を構造的に見せる方法が今はない。情報を集約し、形としてアウトプットしていくことを企画しなければいけないと思う。（鷲見）
- ・矢作川流域圏懇談会の位置づけがよくわからない。何を目標に活動するのかという点などがよくわからない。活動を通じてどういうことを働きかけていくのかを明確にしていくとよい。（溝口）
- ・勉強会などを行い、いろいろな知識をつけて、行政や市民の役割や行動の切り分けがあってもよいと思う。どういうところに働きかけて、どういうふうに巻き込みながらやっていくかなどの方向性を決めていくとよい。（溝口）
- ・これからは流域治水ということで、流域に住んでいる方々に「川をどうしていきたいか」等の視点を投げかけていくことも役割となってくるのかと思う。（溝口）
- ・今日の話合いの結果を事務局で文章化して共有し、みなさんの意見をいただくという形で進めていく。（内田）

◆話し合いでの主な意見

●昨年度の矢作川関係卒業研究の紹介

- ・矢作川ではいろいろな生物への影響がある。その原因は河床の攪乱不足。その要因はダムであろうと思われる。その他には、砂防事業とか、ダム湖内での砂利採取などが河床の攪乱不足の要因となっていると考えられる。(内田)
- ・河川間隙内水域に生息する生物の水条件などはわかっているか。(鷺見)
 - 水条件はよく調べられていない。穴を掘ると水がしみ出てくるが、その量は調べている。(内田)
- ・間隙では大きな石が積もっているような河原がよいのか、いろんな粒径が混ざってすき間がある程度詰まっているほうがよいのか、生息環境の条件はどうか。(鷺見)
 - 報告が出ている修士論文では、溶存酸素を計測している。溶存酸素が低くなると、粒径が粗くなり、水もけっこう通っているが、生物が採れない傾向がある。(内田)

●設立から13年のふりかえり

- ・設立から13年だが、15年という節目で一覧表を整理していきたいと考えている。今回の表で不足している事項があると思うので、追加すべき事項があれば連絡をお願いします。(筒井)
- ・3ページ目の表は、流域圏懇談会と他のつながりについて整理した。プラットフォームとしての役割も担っていることから、別のつながりがあれば連絡をお願いします。(筒井)
 - 今回の表は、どちらかと言うと時系列になっているが、ある程度テーマ別になっていると進捗の状況などがわかりやすいと思う。(内田)

今後の予定



■中間報告会 日時：令和5年11月13日(月)14:00～ 場所：愛知県西三河総合庁舎 10階大会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

